

道徳的価値の理解を深める道徳授業の在り方

由布市立挾間小学校 岩尾 恵

はじめに

道徳授業は、道徳教育の要である。しかし、要である道徳授業において、読み物に登場する人物の心情理解のみに偏った形式的な指導が行われる例があること、学年が上がるにつれて道徳の授業を楽しみ、あるいは、ためになると感じている児童生徒の割合は低下していること等、多くの課題が指摘されている。

平成 27 年 3 月に学習指導要領が一部改正され、「道徳の時間」は「特別の教科 道徳」（以下「道徳科」）として、教科化された。新小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（以下「新学習指導要領」）では、目標の中で「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して」（注 1）道徳性を養うとしている。道徳授業において、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題ととらえ、向き合う「考え、議論する道徳」への質的転換を図ることが求められている。

平成 28 年 8 月に開催された中央教育審議会「考える道徳への転換に向けたワーキンググループ」の配布資料によると、小学校教員の道徳授業の実施状況（全国調査）は、「道徳の授業を十分実施できていると思う」の割合が 34%であり、実施上の課題として、「指導の効果を把握することが困難」48.3%、「効果的な指導方法が分からない」33.2%が上位に挙げられている。一方、道徳教育に関する印象は、「子どもの人間形成に役立っている」「教科の授業とは違うよさがある」「人間関係づくりに役立っている」の選択肢で、肯定的回答（「そう思う」＋「わりとそう思う」）が約 80%となっている。

以上のことから、道徳教育の要である道徳授業は、児童の道徳性を養うに当たって重要な役割があることを教員は一層自覚し、道徳科の目標の達成に向けて、道徳授業の改善・充実に取り組んでいく必要がある。

そこで、本研究は、道徳科の目標の実現に向けて「道徳的諸価値の理解」に焦点を当て、人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること（価値理解）、道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さ等も理解すること（人間理解）、

道徳的価値を実現したり、実現できなかつたりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であるということをも前提として理解すること（他者理解）等、児童が道徳的価値について理解を深めることができるような道徳授業の在り方を探っていく。

I 実態と研究の方向性

1 地域の実態

道徳授業における、教員の実態を明らかにするために、由布市立挾間小学校（以下「本校」）及び由布市教育振興統一研究会 小学校道徳部会の教員を対象に、全国調査の結果と比較できるように、全国調査の内容を一部抜粋した実態調査を実施した。道徳授業の実施状況は、「道徳の授業を十分実施できていると思う」の割合が 31%であり、実施上の課題として、「指導の効果を把握することが困難」32%、「効果的な指導方法が分からない」32%が同率で上位に挙げられた。一方、道徳教育に関する印象は、「子どもの人間形成に役立っている」「教科の授業とは違うよさがある」「人間関係づくりに役立っている」「指導の工夫が多様に考えられる」「子どもの変わる様子が感じられる」の選択肢で、肯定的回答（「そう思う」＋「わりとそう思う」）が 80%を超えていた。

2 児童の実態

本校 5・6 学年児童 184 名を対象に、4 段階評価（「そう思う」「わりとそう思う」「あまりそう思わない」「思わない」）による道徳の学習に関する意識調査（10 項目）を実施した。

「道徳の学習は好き」と肯定的回答（「そう思う」＋「わりとそう思う」）をした児童は、86%（158 名）であった。

好きである理由については、選択肢「読み物」が 32%で一番高く、「色々な話を読むことができる」「読み物が楽しい」等が挙げられた。また、6%という少数ではあるが、「その他」において、道徳科ならではの「答えが色々ある」というよさに気付いている児童もいた。

道徳科において大切にしたい「考える」については9%であった。

一方、「道徳の学習は好きではない」と否定的回答（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）をした児童は、14%（26名）であり、理由として、「何を考えたらいいかわからない」「書く活動があるから好きではない」等が挙げられた（資料1）。

資料1 調査結果（一部）

（設問）選んだ理由を一つ選び、詳しく書きましょう。

選択肢	割合	児童の記述より（抜粋）
読み物	32%	○色々な話を読むことができる ○読み物が楽しい
友達	19%	○友達の考えを聞ける ○友達と自分の考えが違って面白い
学ぶ	13%	○色々なことが学べる ○よいことや悪いことが学べる
自分・生活	13%	○自分に関係している ○生活に役立つ
考える	9%	○めあてや課題を考えるのが楽しい ●何を考えたらいいかわからない
書く	5%	○自分の考えを自由に書ける ●書く活動があるから好きではない
発表	3%	○発表できるとうれしい ○考えが何でも言える
その他	6%	○答えが色々ある ○他の教科よりはいい

* ○は肯定的回答 ●否定的回答

3 研究の方向性

調査結果から、教員については、全国調査とほぼ同様に、指導方法に課題を感じていることが明らかになった。児童については、「道徳の学習は好き」「道徳の学習は好きではない」に関わらず、学習において「考える」ことに課題があることがつかめた。

そこで、上記の課題を解決するため、多様な指導方法として新学習指導要領に示されている「問題解決的な学習」を取り入れた指導について、道徳的価値の理解の深まりにつなげていけるようにするためには、どのような工夫が効果的であるか検証していくこととした。

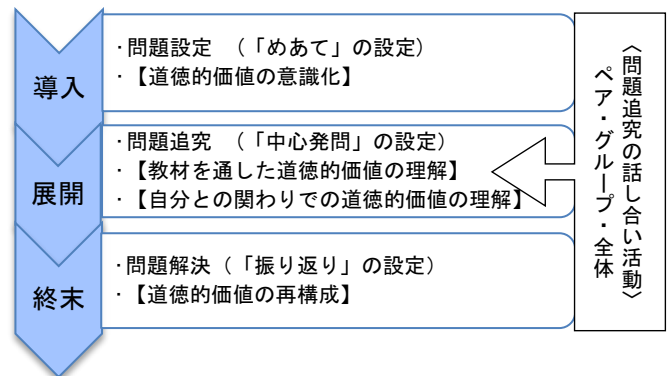
II 研究内容

1 問題解決的な学習を取り入れた指導の工夫

新学習指導要領では、問題解決的な学習の工夫について、「ねらいとする道徳的諸価値について自己を見つめ、これからの生き方に生かしていくことを見通しながら

ら、実現するための問題を見付け、どうしてそのような問題が生まれるのかを調べたり、他者の感じ方や考え方を確かめたりと物事を多面的・多角的に考えながら課題解決に向けて話し合うことである」（注2）と示している。このような問題解決的な学習を支えるために、次のような構造で1時間の授業を進めることとした（資料2）。

資料2 1時間における授業構造



導入は児童が問題意識をもてるように、「めあて」を提示した。「めあて」の設定については、永田繁雄（東京学芸大学）が提唱する「テーマ発問」を参考にした。「テーマ発問」とは、教材の主題やテーマそのものに関わって、それを掘り下げたり、追究したりする発問であるが、児童の中にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる動機付けとなり、ねらいとする道徳的価値の意識化を図っていくことができると考えた。

展開は児童が問題を追究できるような「中心発問」を設定した。また、教材を通した道徳的価値の理解、自分との関わりでの道徳的価値の理解を図るために、問題追究のための話し合い活動として、ペア、グループ、全体での交流の場を設け、多様な考えに触れながら、自己を見つめていけるようにした。道徳的心情、判断力、実践意欲と態度等のいずれの育成を目指すかによって、「中心発問」を問う必要があることから、ねらいにつなげることを意識して行った。

終末は児童が問題に対する自分なりの答えを導き出すために「振り返り」を設定した。自分自身の考え方や感じ方の変容や、学んだことを振り返りに書けるようにした。どんな視点で振り返ればよいか手助けとなるように、授業のねらいに沿った視点を予め提示し、自分自身を見つめ直すことができるようにした。道徳的価値について児童が再度見つめ直し、道徳的価値の再構成を図っていくことができると考えた。

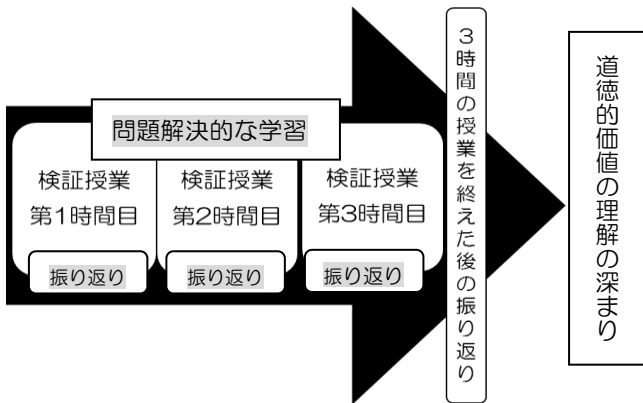
このような授業構造にした上で、指導の工夫として以下の3点について研究を進めていくこととした。

2 指導の工夫

(1) 3時間の指導計画

問題解決的な学習を3週間連続(3時間分の授業)して行うことで、それぞれの授業において、問題解決に向けた多様な見方や考え方に触れられるように計画した。問題解決的な学習を繰り返すことにより、道徳的価値の理解の深まりにつなげていけることができるのではないかと考えた(資料3)。

資料3 3時間の指導計画と振り返り



(2) 考えの可視化

考えを可視化するために、思考ツールを活用し、考えを広げたり、深めたりすることができるようにした。教材によって、異なる思考ツールを使い、活用の仕方も変えるようにした。第1時間目ではマトリックス(表)によって内容を分類・整理、第2時間目ではウェビングによって考えを広げ、グループごとに交流、第3時間目では座標軸によって変化をとらえさせるようにした。

(3) 道徳シートの活用

道徳シートの作成に当たっては、堀哲夫(山梨大学)が開発した一枚ポートフォリオを本研究用に改良し、「道徳シート」として活用した(資料4)。

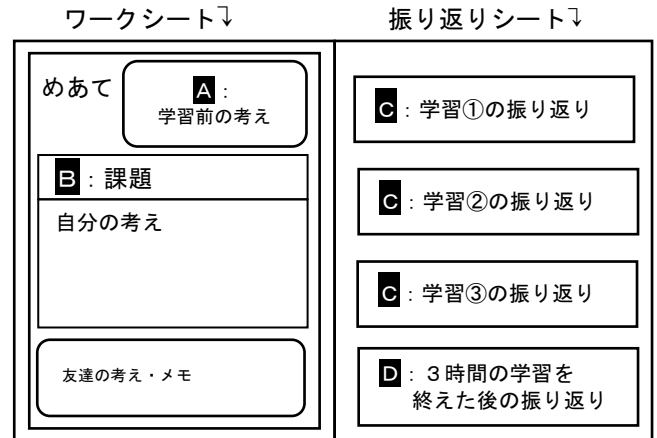
資料4 一枚ポートフォリオについて

教師のねらいとする学習の成果を、学習者が1枚のシートのなかに学習前・中・後の学習履歴として記録し、それを自己評価させる方法をいう。学習による変容を学習者自身が具体的内容を通して可視的かつ構造化された形で自覚できるので、その変容から学ぶ意味を感じ取ることができる(注3)。

道徳シートは、一枚の紙面(A3サイズ)の左面に、ワ

ークシート(1時間ごとの学習で自分の考えを書くために使用:A B)。次の時間のワークシートは、その上に重ねて貼らせる)、右面に振り返りシート(1時間ごとの振り返り:C、3時間の学習を終えた後の振り返り:D)で構成した(資料5)。

資料5 道徳シートの構成と位置付け



ワークシートと振り返りシートを3時間分積み重ねることによって、道徳的価値の理解の深まりにつなげていけるのではないかと考えた。児童の振り返りの記述から、価値理解、人間理解、他者理解に関わる記述がどのように表出しているのか取り出し、分析することとした。

III 検証授業

1 検証授業の概要

本校5・6学年児童184名を対象に、学校の重点目標に関わる内容項目「友情、信頼」と「相互理解、寛容」を扱った授業を計画した。また、3時間の授業を終えた後に、3時間の授業を通した振り返りの時間を設定した(資料6)。

資料6 検証授業計画

検証授業	教材	出典
第1時間目	ロレンゾの友達	日本標準6年
第2時間目	知らない間の出来事	私たちの道徳
第3時間目	ブランコ乗りとピエロ	小学校5・6年 文部科学省
3時間の授業を終えた後の振り返り		

検証授業1時間目「ロレンゾの友達」、検証授業3時間目「ブランコ乗りとピエロ」は、自分達の日常生活と少し離れた教材(外国の話や生活実態とは異なる話)、検

証授業2時間目「知らない間の出来事」は、新学習指導要領に対応した、情報モラル、いじめの問題についての教材である。

2 検証授業の実際と考察

(1) 検証1時間目(第1時/3)

教材：ロレンゾの友達

ロレンゾから、アンドレ、サバイユ、ニコライのもとに20年ぶりに会おうという手紙が届く。しかし、3人は、ロレンゾが会社の金を持ち逃げし、警察に追われているという話を聞き、ロレンゾが会いに来たらどうするか話し合う内容である(資料7)。

資料7 「ロレンゾの友達」学習指導案(略)

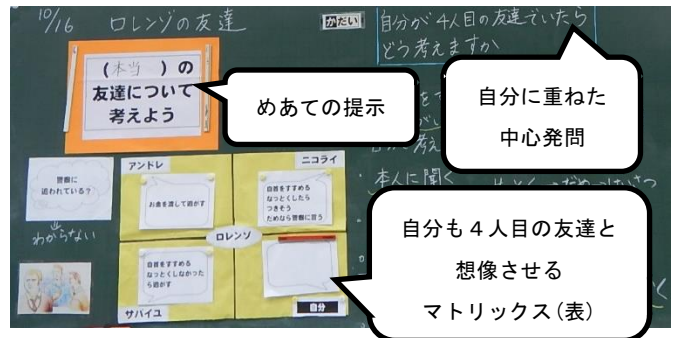
内容項目	「友情、信頼」 友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。
ねらい	友達のロレンゾを思う3人の考えの違いから、自分が4人目としてその場にいたらどうするか考える活動を通して、より深い友情を築いていこうとする態度を育てる。
めあて	本当の友達について考えよう。
課題	自分が4人目でいたらどう考えますか。
学習指導過程	導入 本当の友達について、自分の考えを書かせる。
	展開 ○教材を範読後、内容を確認する。 ○友達3人の考えを整理する。 「3人はどう考えたのかな」 ○自分が友達だったらどう考えるか考えさせる。 「自分が4人目でいたら、どう考えますか」 (中心発問) ○考えを発表させ、板書に整理する。 ○「本当の友達として大切にしたいこと」をペアで話し合わせ、全体で共有する。
	終末 めあてを再度確認し、「本当の友達」について、振り返りに書かせる。

導入では、友達について深く考えさせるために、友達に「本当の」と付けて提示した。はじめに「友達ってどんな人かな」と問うとすぐに返答があったが、次に「本当の友達ってどんな人かな」と問うとすぐには返答がなく、「本当の友達ってどんな人かな」と考えている様子がうかがえた。そこで、めあてを「本当の友達について考えよう」と提示し、自分の考えを書かせる。「友達」と「本当の友達」と提示したことで、違いを意識しながら、考える児童の姿につなげることができた。

展開では、自分も4人目の友達だということが想像できるように、思考ツールのマトリックス(表)を4等分にして可視化し、中心発問「自分が4人目で(その場に)いたらどう考えますか」につなげた。「自分だったらどうするか」と自分と重ねることで、発表や交流する時に、

「ぼくだったら～する」「私だったら～する」と自分のこととして問題を追究する発言があった。「自分だったらどうするか」という中心発問が自分のこととして考える姿につながったと考える(資料8)。

資料8 板書での指導の手立て



終末では、「本当の友達」について再考させるために、再度めあてを確認し、振り返りを書かせる。道徳シートには、「話は難しかったけど本当の友達について1時間しっかりと考えました」「ロレンゾの友達だったらどうしたらいいのか悩みました」等、真剣に考えていることがうかがえた。また、「学習前は分からなかった。～だと分かりました(資料9-a)」と、学習前後の考えの変容を書いている児童がおり、道徳的価値の理解の深まりととらえられそうな記述が見られた。また、「本当の友達なら～いいと思いました。でも～分かりません。それを～したいです(資料9-b)」という、よさは分かっていたけど、実現するのは難しい、そのために～したいという人間の弱さやこれからの自分の生き方の課題を書いている児童も見られた。ペア活動以外にも、ほぼ全員に考えを発言させたことで、友達との交流で学んだ(資料9-c, d)等、多様な考えに触れることができ、自分の考えをしっかりとつづることができていた。

資料9 児童の終末の振り返り

価値理解	○学習前は本当の友達がなんだろうと考えもしなかったし、分からなかった。自分がロレンゾの友達だっただけで思いながら勉強したら、ロレンゾの友達のようにうわさをそのまま信じて、友達のいうことを聞くのが本当の友達なのだと分かりました a。
人間理解	○本当の友達とは、友達が困ったときに、一緒に考えてあげることが分かった。これからは困っている友達がいたら助けてあげられるようにしたいです。 ○私は本当の友達なら正しいことをしてあげるのがいいと思いました。でも正しいことはどんなことをしてあげればいいのか分かりません。それを友達と一緒に考えたいです b。
	○友達の理由を聞かないで、決めつけるのは悪いと思った。でも、本当の友達として、どんなことをしてあげたらいいのか、友達への優しさということとはどんなことなのかを決めるのが難しいと思った。

他者理解	<p>○人によって、本当の友達ならどうするか考えが違うことに驚いたc。本当の友達なら、逃がすと思う人もいれば、罪を軽くするために警察に言うと思う人がいて、それぞれの立場で考えるのが大事だと思った。</p> <p>○ちゃんとロレンゾのことを考えて、色々な意見を言い合って、こうした方がいい、あした方がいいとみんなで言い合ったのが、自分の考える力になったd。自分も何かあったら友達の話聞いて話し合っ、考えたり、考え直したりするのがいいと思った。</p>
------	--

(2) 検証 2 時間目 (第 2 時 / 3)

教材：知らない間の出来事

転入生のあゆみは、みかからメールアドレスを教えてほしいと言われるが、携帯電話を所有していなかったために、家の電話番号を伝える。がっかりしたみかは、そのことを何気なくメールに書いて友人に送る。すると、あゆみは前の学校で仲間外れにされていたといううわさが他の人に伝わってしまったという内容である(資料 10)。

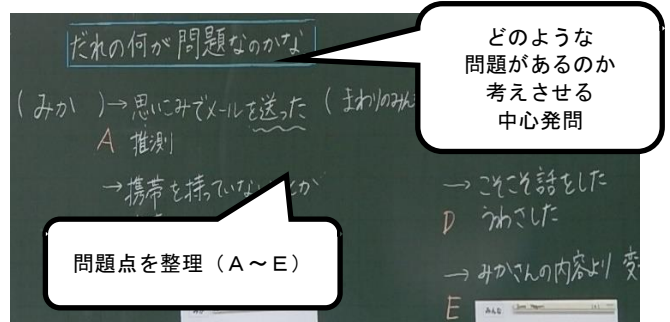
資料 10 「知らない間の出来事」学習指導案(略)

内容項目	「友情、信頼」 友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。
ねらい	みかと周りのみんなの言動から、誰の何が問題なのか問題点を出し合い、どうすればよかったのか具体的な解決方法を考えることを通して、相手の立場を考え、よりよい関係で友達と付き合うための判断力を育てる。
めあて	友達との付き合い方について考えよう。
課題	誰の何が問題なのかな。
学習指導過程	導入 友達との付き合い方について、大切にしていることや気をつけていることの自分の考えを書かせる。
	展開 ○あらすじを簡単に説明し、知らない間に何が起こったのか投げかけ、範読する。 ○誰の何が問題なのかな、考えを出し合わせる。 「誰の何が問題なのかな」(中心発問) ○「どうしたらよかったのか」について、「みか」と「みんな」の立場に分け、グループごとにウェビングに書かせる。 ○グループごとに作成したウェビングを回覧させ、他のグループの考えを知らせたり、自分の考えを広げさせたりする。 ○「友達との付き合い方で大切にしたいこと」をペアで話し合わせ、全員で共有する。
終末	めあてを再度確認し、「友達との付き合い方」について、振り返りに書かせる。

導入では、前時の 1 時間目と同じ内容項目「友情、信頼」でつながりを感じさせるために、前時の学習を振り返り、本時では、「友達との付き合い方を考えよう」とめあてを提示した。児童から、「今日はどんな友達の学習をするのかな」「前の時間の続きですか」等の発言があり、本時の学習に対する意欲を感じた。そこで、友達との付き合い方について、自分が大切にしていることや気をつけていることを書かせ、問題意識につなげた。

展開では、どのような問題があるのか考えさせる中心発問「誰の何が問題なのかな」を投げかけ、教材に含まれている問題点を出し合い、板書に整理した(資料 11)。

資料 11 板書の指導の手立て



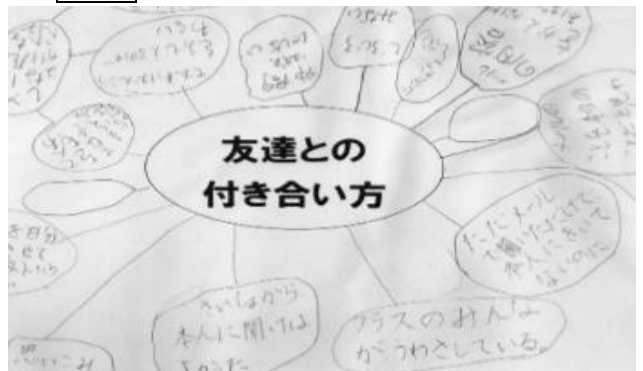
その後、多面的・多角的な考えに触れることができるように、問題を解決するための二つの立場(メールを送った当事者の「みか」・うわさを聞いた周りの「みんな」)に分け、思考ツールのウェビングを使って考えを可視化させ(資料 12-①, ②), グループごとに交流させた。可視化したことが考えの広がりにつながり、短時間で交流ができた。

資料 12 グループ活動 ウェビングの様子

① グループ活動の様子



② みんなグループのウェビング



終末では、「友達の付き合い方」について再考させるために、再度めあてを確認し、振り返りを書かせた。道徳シートには、「～を学びました(資料 13-a)」と、自分が学んだことや分かったことを素直に書いている児童が多く見られた。また、「だんだん分かってきたような気がします(資料 13-b)」と前時の学習とのつながりを意識している様子うかがえた。「もし～だったら…しない(資料 13-c)」とこれからを仮定して書いている児童もいた。道徳的価値の理解に当たり、自分の生活につなげていることが分かった。「私もよく～してしまうことがあります(資料 13-d)」「私も～できないことがあったので(資料 13-e)」等、自分の弱さを正直に書いている児童もおり、自分の生活での言動を振り返っている姿も見られた。友達の発表やグループ活動での考えの交流から学んだこと(資料 13-f, g)等も書いており、友達と多様な考えに触れ、自分の考えの深まりにつながっていることがうかがえた。

資料 13 児童の終末の振り返り

価値理解	○友達には正直にいうことを学びました a。ロレンゾの時から本当の友情がだんだん分かってきたような気がします b。もしメールでいやなことを言ったり、悪いことをしたりしたら正直に言ってあやまりたい。 ○自分の思い込みは自分だけにして、相手に確かめるべきだと分かった。もし自分に送られてきたとしても確にんしてないのに信じたり、うわさ話をしたり、こそこそ話をしたりしてはいけないと思ったので、そんなことはしない c。
人間理解	○私もよく思い込みをしてうわさを流してしまうことがあります d。でもそれをして、うわさをされた人が悲しくなってしまうから、これからはちゃんと聞いて、友達を悲しい気持ちにさせないようにしたいです。 ○私も本人にたしかめずにみんなに話してうわさをしたり、友達がうわさをしていることが聞こえても、こわくて注意できないことがあったので e。これからは直接本人に聞いてたしかめることや「悪いことは悪いよ」と言えるようにしたいと思いました。こういうことがいじめにつながると思いました。
他者理解	○これから私が友達と接する時にはちゃんと先を考えて言ったり、行動したりすることを心がけたいと思った。最後に A 君が言った「本当かどうか本人にたしかめる」こともいいと思った f。うわさが流れてきたら、本当にそうなのかちゃんと本人に聞いてたしかめるようにしたい。 ○メールのことでうわさをするのは悪いと思っていたけど、他にも、「みんながこそこそ話をしたり、いやな目線を送ったりする態度も悪い」ということが分かりました。今回の勉強で、友達と話して自分の考えをまとめたり、グループで考えたりできたことが、とても勉強になりました g。

(3) 検証 3 時間目 (第 3 時 / 3)

教材：ブランコ乗りとピエロ

サーカス団のリーダーであるピエロは、自己中心的な

振る舞いをするブランコ乗りのサムに一方向的に腹を立てていた。しかし、必死に頑張るサムの姿に接し、広い心と謙虚さを取り戻して、互いの心を通い合わせていった。サムは身勝手なところもあるが、誰よりも真摯に演技に向き合っていることに気付いたピエロは、サムを受け入れ、サーカス団の一員であることを論ずる内容である(資料 14)。

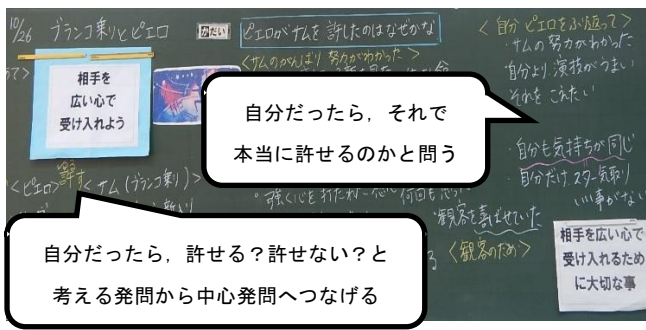
資料 14 「ブランコ乗りとピエロ」学習指導案(略)

内容項目	「相互理解、寛容」 自分の考えや意見を相手に伝えるときにも、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。	
ねらい	ピエロがサムを許した理由を、ピエロのサムへの思いを通して気付かせ、自分と異なる意見や立場を大切にし、相手を広い心で受け入れようとする判断力を育てる。	
めあて	相手を広い心で受け入れよう。	
課題	ピエロがサムを許したのはなぜかな。	
学習指導過程	導入	○「相手を広い心で受け入れるにはどうしたらよいか」、自分の考えを書かせる。 ○自分の心が広い・狭い、友達が自分勝手なことをしたら許せる・許せないという視点で、座標軸に可視化させる。
	展開	○教材を範読後、内容を確認する。 ○サムの態度は許せるか、許せないか問う。 ○ピエロの気持ちの変化を考え、発表させる。 「ピエロがサムを許したのはなぜかな」 (中心発問) ○出された意見に対して、自分だったらそれで本当に許せるのか考えさせる。 ○「相手を広い心で受け入れるために大切なこと」をペアで話し合わせ、全体で共有する。
	終末	○めあてを再度確認し、導入の座標軸に学習後の自分の考えを記入させる。 ○「相手を広い心で受け入れるには」について、振り返りを書かせる。

導入では、相手を広い心で受け入れることについて、考えを書かせた後、問題意識をもたせるために、思考ツールの座標軸を活用した。縦軸を自分の心が広い・狭い、横軸を友達が自分勝手なことをしたり、約束を破ったりしたら許せる・許せないという視点で、今の自分を位置付かせた。

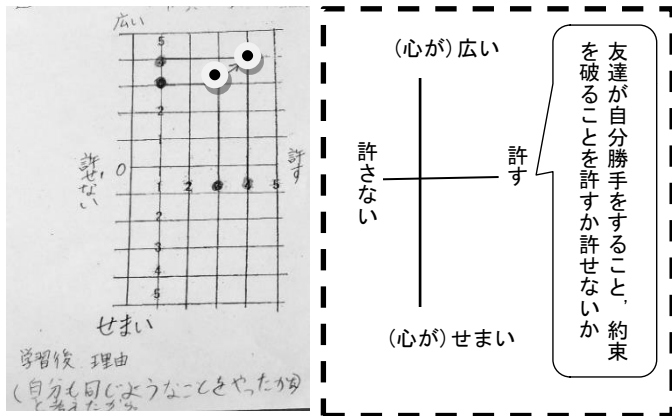
展開では、「自分だったらサムの自分勝手に約束を破るような行為は許せるか、許せないか」を考えさせるために、どちらの立場か挙手で意思表示をさせた。「許せない」の立場がほとんどだった。そこで、中心発問「ピエロがサムを許したのはなぜかな」を投げかけた。更に考えを深めるために、「自分だったらそれで本当に許せるのか」と問うことで、児童が深く考え始める様子うかがえた。ピエロに対する考えを「自分だったら」と問うことで、児童自身の考えや生き方を問うことにつながる発問になった(資料 15)。

資料 15 板書の指導の手立て



終末では、相手を広い心で受け入れることについて再考させるために、再度めあてを確認した。まず、学習前後の変化をとらえさせるために、導入で記入した座標軸に学習後の自分の考えを記入させた。座標軸の点をどこにするか真剣に考えている様子が見られた(資料 16)。

資料 16 児童の座標軸



最後に、振り返りを書かせたが、道徳シートには、大切なことや分かったこと(資料 17-a, b)等の価値理解につながるような記述が見られた。また、ピエロのように「これからはそうしていきたいが～いきなりするのは無理だけど(資料 17-c)」「私は～してしまうけど(資料 17-e)」等、素直に自分の弱さを見つめた人間理解につながる記述や、「ピエロを見習って～していきたい(資料 17-d)」「ピエロのように～したいと思った(資料 17-f)」とこれからの自分の生き方についての記述も見られた。友達から学んだこと(資料 17-g, h)等も書かれていた。全体的に人間理解につながる記述が多く見られたが、ピエロと自分を比べたり、ピエロの言動を通してこれからの自分を想像したりして、自己内対話をしたことによるものではないかと考える。授業が終わってからも、教材文を読み返し振り返っている姿も見られ、児童の心を打つ学習になっていたと感じた。

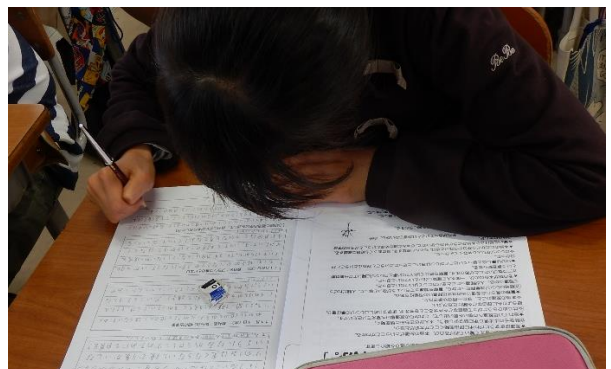
資料 17 児童の終末の振り返り

価値理解	<p>○態度は悪くても、相手には必ず1つはいいところはある。だから、いくら好きではない友達でも必ずいいところはあるはずと思いました。そして自分の悪いところも自分で分かったことが大切だと思いました a。私も自分の悪いところをさがしてよくして、友達のいいところを見つけようと思いました。</p> <p>○ピエロは自分を反省して、サムに「お互いスターという気持ちを捨てた方がいい」としっかり伝えることができてよかった。ぼくも今までは許せないと思うとそのまま注意しなかったり、仲の良い友達だと悪いことも許したりしていたのが悪いと分かった b。これからは友達の悪いことはすぐに言ったり、直してもらったりしていきたいです。</p>
人間理解	<p>○自分の気持ちだけ考えるんじゃなく、もっとよく相手の気持ちを考えて、言葉を交わしたり、行動したりすれば、広い心で受け入れられると思う。これからはそうしていきたいが、さすがにいきなりするのは無理だけど c。ピエロを見習って、相手の気持ちを聞いたり、本当のことをたずねたりして、広い心で受け入れていきたい d。</p> <p>○私はイラついたらその人のことをせめてしまうけど e。その人のことだけをせめるのではなく、自分のこともふり返って友達のことをきずつけないように気をつけたいです。ピエロのように広い心をもち友達を大切にしたいと思った f。広い心をもつことは人への思いやりだとも思った。</p>
他者理解	<p>○同じ人間だからすれ違うことがたくさんあると思います。けれど相手の意見を聞かないのではなく、聞いてあげたいです。授業で友達の考えを聞くと、友達の考えが分かるので g。友達は大切な存在ということがよく分かりました。</p> <p>○ピエロを見習って広い心をもとうと思ったけど、ピエロみたいに許せるかはわからない。ピエロと比べたら、心はせまいのかなと思った。友達のことを自分のかん違いで判断してはいけないということが改めて分かった。友達の意見を聞いてメモして、自分とどう違うか比較することができ h。自分の思ったことをまとめることができた。友達のいいところを見つけて、尊敬することも大切だと思った。</p>

(4) 検証 3 時間を終えて

検証 3 時間を終えた後、児童が道徳的価値の理解を深められるように、学習したことを児童と一緒に振り返った。その後、3時間の学習を通した振り返りを書かせた(資料 18)。

資料 18 振り返りを書く児童の様子



道徳シートには、3時間を通して考えたり、学んだりしたこと等を書いている児童(資料 19-a, c), これからの希望を書いている児童(資料 19-b), 特に心に残っている教材を中心に書いている児童(資料 19-d), 1時間ごとに学んだことを書いている児童(資料 19-e), 自分の現状を振り返り、これからこうしたいという願いも書いている児童(資料 19-f), 学習前後の変容を書いている児童(資料 19-g) 等の記述が見られた。自己を見つめ、生き方について考えを深める時間になり、これからの自己の生き方についてじっくり考える学習につながったと考える(資料 19)。

資料 19 児童の3時間を終えての振り返り

価値理解	<p>○3つのお話を読んで、自分だけじゃなく、相手の気持ちを考えるようになりました a。人は誰だって、疑ったり、思い込んだり、イラ立ったりしたことがあると思います。相手の気持ちを考えないと、悲しむ人がいることが分かりました。これからは、友達のことをもっと大事にしようと思いました b。</p> <p>○この3時間を通して、全て相手に対してのことなので、ぼくの友達関係を見直し、相手の心が傷つくようなことはしないと心から学びました c。そして特に最後に勉強したピエロのように、自分が何かが上手くても、相手を上から見下さず、相手のがんばりをみとめることができる人になりたいと思いました d。</p>
人間理解	<p>○特に「知らない間の出来事」が勉強になりました。本人に聞かずにみんなでうわさをすることが多いので、これからは本人に直接聞こうと思いました。ロレンゾでは「悪いことは悪いと言う」、ピエロでは「人のいい所をたくさん見つける」ことが勉強になりました e。</p> <p>○自分の考えだけでなく、人の気持ちを理解することが大切だと思いました。ぼくは人によく注意をするけど、気付かない所でその人をきずつけているかもしれないと思いました。人に注意する前に、自分はどうかふり返って、相手の気持ちを考えていきたいです f。</p>
他者理解	<p>○私は最初何でも相談できるのが友達だと思っていました。だけど、勉強していくうちに悪いことをしたら正直に言ってしっかりあやまったり、人を注意するときは、自分はできているかふり返ったり、その人のいいところを見つけたりすることが大切だと分かりました g。みんなの思ったことを聞いて、一人一人みんなちがうことを考えていて、こういう考えもあるんだなととても共感できました。</p>

検証授業後の事後調査では、「道徳の学習は好きではない」と回答していた児童が、「考え方が分かった」「友達の考えが分かるようになった」と肯定的な回答をしており、道徳の学習に対する意識の変化が見て取れた。

好きである理由については、選択肢「考える」の割合が9%→18%と倍になり、事前で一番割合が高かった「読み物」の割合が32%→8%へ減っていた。道徳は単に「読み物」を読む学習ではなく、読み物：教材を通して、「考える」学習だと多くの児童が実感したからだと考える。また、「友達」の割合が19%→24%と一番高

くなっており、問題解決的な学習の展開で、自分の考えを書いた後に、問題追究のための話し合い活動(ペア・グループ・全体)で交流する場を毎時間設けたことが、多面的・多角的な考えに触れることにつながったと考える。

また、「自分・生活」の割合が13%→20%と高くなっていることは、自分のこととして考えたことで、授業と自分の生活を関連させることができ、これからこうしたいという意欲や願いにつながったと考える(資料 20)。

資料 20 調査結果 (一部)

(設問)選んだ理由を1つ選び、詳しく書きましょう。

選択肢	割合		児童の記述より(抜粋)
	事前	事後	
読み物	32%	8%	○道徳の時間の話が面白い。 ○普段小説を読まないから、道徳の時間で色々な話を読める。
友達	19%	24%	○自分の考えを出して友達から新しいことを学べる。 ○色々な気持ちや考えがみんなの意見を聞いて分かる。 ○みんなと考えを出し合うのが楽しい。
学ぶ	13%	16%	○気持ちを考え、新しいことを学べる。 ○難しいときもあるが大切なことが分かる。 ○友達のことや自分に必要なことが分かり、とてもためになることを学ぶ。
自分・生活	13%	20%	○これから先の生活で大切なことばかりで、生活に生かして、未来をよくしたい。 ○人の気持ちがより一層分かったので、自分の友達付き合いに生かしたい。 ○自分のことを見直している感じがして、自分の今までの態度をふり返れる。
考える	9%	18%	○自分が普段は考えたことがないことをしっかり考えることをできる。 ○友達にどう接しているか、どうすればいいのかなど自分の考えを改めて考えられる。 ○答えがなく自由に考えられる。
書く	5%	4%	○自分の考えを抵抗なく書けた。 ○最初は嫌いだったけど、考え方が分かり、考えを書けるようになった。
発表	3%	6%	○道徳には答えがなく、進んで発表することができる。 ○自分の考えを出し、新しいことに気付く。
その他	6%	6%	○答えがたくさんある。 ○一人一人考えが違っておもしろい。 ○不正解がないから、意見が自由に述べられる。

IV 成果と課題

1 研究内容の有効性

問題解決的な学習とするため、意図的に「自分だったら～」と自我関与を促す発問にしたことは、自分との関わりで考え、自己の生き方について考える姿につなげ

ることができたと考える。「今は～だから、これからは～したい」という願いにもつなげることができた。このことから、問題解決的な学習においては、中心発問が大きなポイントになり、「自分だったらどうするか」という発問は、一人一人が自分の経験や考えに照らし合わせて考える姿に結びついてきたと考える。

また、複数時間、問題解決的な学習を繰り返し行うことにより、児童は道徳的価値に対する自分自身の考えを改めて見つめ直すことができ、自分の思考を広げ深めることができたのではないかと考える(資料 21)。

資料 21 1 時間及び 3 時間を終えての振り返り(抽出児童)

第 1 時 ロレンゾの友達

本当の友達ってはじめはいつも楽しくいっしょにいる人と思っていたけど、この授業で、本当の友達は楽しいときだけでなく、困っているときも話を聞いてくれる人だと思った。

第 2 時 知らない間の出来事

この授業も前の時間と同じ友達のうわさに関することだった。そのうわさを自分の思いこみで行動していたので、本当のことを本人にたしかめないといけないと思う。

第 3 時 ブランコ乗りとピエロ

私はピエロのようにサムを許すことはできないと思う。けれど、私もピエロのような広い心の持ち主になりたい。だから、色々な人にやさしくするのからはじめていきたいと思う。

3 時間の学習を終えて

3 時間の授業を通して、道徳はみんな答えがちがうし、思っていることもちがうんだなと思いました。特に一番はじめの「ロレンゾの友達」で、みんな色々な答えを考えていて、「あ、たしかに」と思うことがありました。それに道徳は自分を見直す勉強だと思いました。これから授業で考えたことや友だちから学んだことを大人になっても忘れずに過ごしたいです。

「考えの可視化」については、思考ツールを使うことで、自分の考えが見える形で整理でき、自分の考えが広がり、道徳的価値の理解が深まる姿につながったと考える。事後調査での好きな理由を見ると、「友達」を選んだ児童が一番多く、「自分の考えを出して友達から新しいことを学べた」「色々な気持ちや考えが、みんなの意見を聞いて分かる」等が挙げられていた。

このように、思考ツールの活用は、考えを可視化できると同時に児童同士で異なる考えや新たな考えを出し合える機会になっていた。また、多様な考えに触れることで、道徳的価値を多面的・多角的に考えることにつなげることができ、道徳的価値の理解の深まりにつながっていくのではと考える。

「道徳シートの活用」については、児童がこれまで

の学びや考えの変容を実感することができるよさがあったと考える。また事前調査で、「書く活動があるから好きではない」と回答していた児童たちが、事後調査では「自分の考えを抵抗なく書けた」「考え方が分かり、考えを書けるようになった」と記述していたことから、1 時間のワークシートの書く活動を 3 点(①めあてに対する今の考え：学習前の道徳的価値、②課題に対する自分の考え、③学びの振り返り)に絞り、ワークシートの形式も毎時間同じものにしたことも有効であったと考える。児童にとっては、学習の履歴となり、シートを通じて児童自身が変容を実感でき、指導者にとっては道徳的価値の理解の深まりの姿をとらえるための有効な手立てになったものと考えられる(資料 22)。

2 課題

授業によっては、終末で振り返りを書く時間を十分保障できないことがあった。振り返りは、1 時間を通してねらいとする道徳的価値についてじっくりと考える姿につながることから、毎時間しっかり時間を保障することが必要である。そのため、指導者は、問題解決的な学習を、「導入→展開→終末」の流れにおいて、適切な時間配分を意識して進めることが必要である。

「考えの可視化」については、思考ツールを使うことは有効だと感じたが、思考ツールを使うことが目的にならないように配慮する必要がある。児童自身が、考えを広げたり、深めたりするための手段として使えるように、授業のねらいにせまることのできるツールを活用し、日頃から実践を積む必要がある。

「道徳シートの活用」については、今回の振り返りは書く活動のため、記述に表れにくい児童の学習状況について把握することが難しい。記述以外の思いや考えを直接聞いたり、授業中の発言を記録したりする方法について考える必要がある。

また、今回は 3 時間の指導計画を立てたが、道徳科の特質を生かした多様な方法を取り入れた指導を組み合わせるような指導計画を立てる必要がある。

V 還元計画

研究成果の還元・普及としては、校内研究にて研究報告を行う。また、研究テーマに関連する内容について研究を深め、実践で活用し、積極的に授業公開を行うこととする。更に、由布市教育振興統一研究会 小学校道徳部会において、本研究を活用した授業公開並びに研究

資料 22 実際の児童の道徳シート

5年 道徳ワークシート 5年組 ()

♡学習のめあて 相手を広い心で受け入れよう 相手を広い心で受け入れるために大切な事
やさしい心

♡教材名 ブランコ乗りとピエロ

♡課題

ピエロの心の中からサムをにくむ気持ちが消えたのはなぜかな。

♡自分の考え

一生けんめい演技を終えたサムを初めて見て、ヤリき、たんだなと何回も思っているうちに、サムがかんぼつたから、観客の心を打ったと分かったからにくむ気持ちがなくなった。

♡友達の考え・メモ

<サムの姿を見て> つかれ果てたま青 一生けん命かんぼつりくたりかいばい	<サカス団・観客> サカス団のためにすい演技をした	<自分(ピエロ)> サムの心さ自分〇目立ちたかた、おたかいにスターの気持ちを捨てよう
--	------------------------------	---

道徳♡ふり返りシート 5年 ()

☆学習を終えて、考えていることや思っていることを書きましょう。

10月27日(月) 教材名: ロレンソの友達

自分の考えの他にも友達の考えを聞いて、やはり悪いことは悪いから自首させた方がロレンソのつみは重くならないし後で後悔かいないようになるからロレンソのためにも自首させろ。それができたらのが本当の友達だと思いました。

11月 1日(水) 教材名: 知らない間の出来事

私かもし他の人からメールがきたら、他の人に送らなくて、本人にちゃんと聞いて確認にします。もしさかういたら送った人にそれはさかうよと言って、私も勝手に思いこんたりしないように気をつけたいです。そして思いこんでしまつたらあやまりたいです。

11月6日(月) 教材名: ブランコ乗りとピエロ

もしも、相手がかてなことも、スターになりたかから目立っていて、けらがたても、まず自分はこんなことではないか一度考えてみたい。いつでも相手のことはかりてはなくて、まず自分はどうかなと考えるおして、広い心を持つようにしたいです。

【3時間の道徳の学習を通して、自分に変化がありましたか】

ブランコ乗りとピエロのとき、私も一番なりました。最初ピエロはさうしてサムのことをゆるしたのかよく分かりませんでした。でも最後を讀むとピエロも自分もサムのよう目立ちたかた、自分のことを考えて自分もサムと同じ気持ちと考えたからゆるさせたんだと思いました。だから私もピエロみたいに広い心を持ち、自分はどうか考えていきたいです。道徳の勉強をしてよかったと思いました。

報告を行うこととする。

おわりに

本研究は、道徳的価値の理解を深め、考えることが好きな児童を増やしたい、これまでの自分の道徳授業をよりよいものにしたいという思いで進めてきた。授業では、「道徳では、一人一人の考えが大切だよ。たくさん考えることが、自分のためだけでなく、友達のためになるんだよ」と伝えてきた。児童から、「道徳では普段考えないことを真剣に考えた。考えたことや、みんなで学んだことが自分の生活、将来へつながるのが道徳だと思った」等の発言があり、研究を通して一緒に学習した児童が、道徳科のよさを感じていることがなにより嬉しく思った。今回の研究を生かし、全ての児童が考えてみたい、考えることが楽しいと思う道徳授業を実現し、道徳的価値の理解が少しでも深まっていくような道徳授業をこれからも考え続けていきたい。

(引用文献)

(注1, 2) 文部科学省 小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 平成29年6月 p.16, p.92

(注3) 堀 哲夫『一枚ポートフォリオ評価 小学校編』日本標準 2006 p.8

(参考文献)

永田繁雄・藤澤文『道徳教育に関する小・中学校の教員を対象とした調査』(結果報告書)東京学芸大学 2012
 田村 学・黒上晴夫『考えるってこういうことか! 「思考ツール」の授業』小学館 2013
 中央教育審議会『考える道徳への転換に向けたワーキンググループ 議論のまとめ案についての参考資料』文部科学省 2016
 柳沢良太『問題解決的な学習で創る道徳授業超入門「読む道徳」から「考え、議論する道徳」へ』明治図書 2016
 永田繁雄編者『平成28年度 小学校 新学習指導要領の展開 特別の教科 道徳科編』明治図書 2016
 加藤宣行『指導と見取りのポイントが分かる! 子どもに寄り添う道徳の評価』光文書院 2017
 赤堀博行『特別の教科 道徳で大切なこと』東洋館出版社 2017